

自分の祖父母と同じくらいの年齢の方々ばかりで、特に抵抗を感じることなくコミュニケーションをとることができたと思う。しかし、認知症であったり手足の不自由をお持ちの方ばかりなので、みなさんそういったことにコンプレックスを持っておられて、そのような発言に対しての対応が非常に難しく感じた。

5日間を通してコミュニケーションを取る時間が大半だったので、徐々に利用者の方とのお話が盛り上がるようになっていたり、初めは何を言っているのか、何を伝えたいのかほとんど分からなかったのが、分かるようになっていたり、自分なりの成長も感じられたことが収穫である。

また、社会福祉施設の職員さんの仕事というのは未知であったが、非常に忙しそうであることがたくさんある印象を受けた。それと同時に、多忙すぎて利用者の方とコミュニケーションをあまり取れていないように思ったという一面もあった。教職での実習ということで、介護に関する知識はほとんどない状態だったので、排泄や入浴、食事は見ているだけであったが、この先見れることもないと思うので、とても貴重な経験をさせてもらえたと思う。

行くまでは、正直なぜ行かなくてはいけないのかと思っていたが、人とのコミュニケーションのとり方の難しさを改めて実感し、原点に帰れたように思う。当たり前のことが当たり前でない人たちと接することは、一つ一つ考えさせられ、自分を見直すことにも繋がった。大変で、考えることはたくさんあったが、とてもいい体験となった。

以上